

まろり 看護学生

2025・2026年

1201

月号



ほっとステーションが
リニューアルしました！
ぜひたくさんの投稿
お待ちしております♪



- 02・03 私の出会った患者さん—— 安田 由季さん(神戸協同病院)
04 1年目看護師奮闘記—— 加藤 真穂さん(尼崎医療生協病院)
05 ナースの仲間—— 松本 圭太さん(東神戸病院)

- 06 看護学生日記—— S.Cさん(尼崎看護専門学校)
07 ほっとStation
08 ナーシングセミナー

私の出会った 患者さん



神戸協同病院
外来
安田 由季さん



【患者さん紹介】
70歳代男性／膀胱がんで手術歴あり
独居／家族は息子さんが近くに居られ協力的。
要支援2／訪問看護、ヘルパーを利用。
薬は薬剤師の訪問を利用。
尿細胞診で再発を確認し、専門病院への受診をすすめたが、「もうこれ以上長生きしたくありません」「（専門病院へ）絶対行きません」と拒否された。しばらく病院へ通われていたが、過去に事故で下肢に障害もあり、徐々に歩行が困難となり訪問診療へ変更となった。

はじめに

私は20年目の看護師です。病棟、手術室を経て、現在は外来で働いています。

外来の業務の中に訪問診療があり、医師と一緒に患者さんの自宅や施設へ伺い、診療の介助をしています。訪問は火曜日、水曜日、木曜日に行っており、曜日によって担当医師が決まっています。診療回数は月2

回の方が多くですが、月1回、毎週など、その患者さんの状態に応じて医師が判断します。また、私以外に3人の看護師が訪問診療に関わっており、交代で行っています。

訪問診療することで普段、病院に居るだけでは気づけないことや発見がたくさんあり、改めて看護の必要性について考えるきっかけになっています。



以前に病棟で働いていた時、処方されていた薬を飲んでおらず、何度も同じ症状で入院される患者さんが何人かおられました。その時は「薬を飲んでいたら入院しなくていいのに」と漠然と思っていましたが、訪問診療に行ったことで、患者さんだけが原因ではなく、環境なども影響を与えるのだということに気がきました。病気だけでなく、患者さん自身をみることの重要性を改めて感じます。

そんな中で一人の患者さんと出会い、「その人らしさとは」「生き方とは」を考えさせられた出来事があったので紹介したいと思います。



初回往診時は、室内では自立しており、外出はしていませんでした。2回目の往診時、息苦しさとの痛みを訴え、Spo2は時間をかけ94%まで上昇する状況でした。2週間に1回訪問診療を行い、診察やバイタル測定、採血などで状態観察を続けました。血尿が出る、膝の痛みなど症状はありましたが、何とか一人で過ごされていました。

訪問診療開始して7か月ほど経過し、全身浮腫や呼吸苦など状態の悪化がみられました。動きも悪くなり、布団で過ごされていたためベッドの導入を勧めましたが、拒否されました。「入院はしたくない。病院よりも家に居たい」「トイレに行けなくなる前に終わりにしたい」と訴えられました。安静にしている時も息苦しさがみられ、在宅酸素の導入を勧めましたが、それも拒否されました。

家族の思い

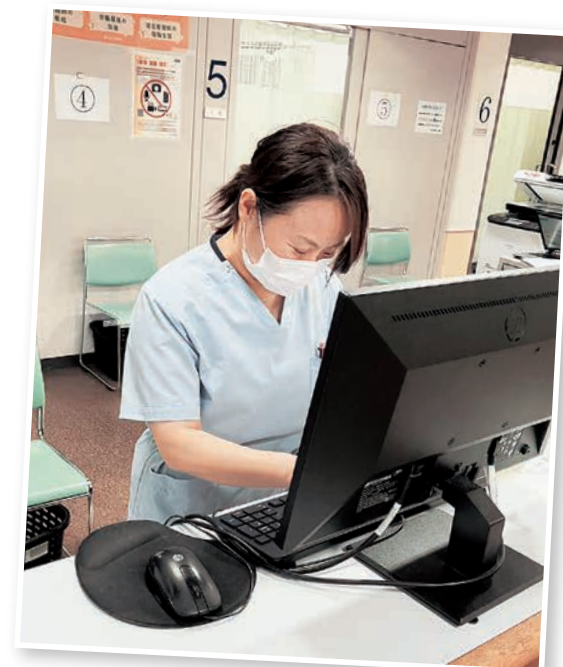
状態が悪化し、息子さんへ状況や本人の思いを伝えたと上で、息子さんの思いを確認しました。自宅に行き、本人から話も聞いておられ「昔から一回言ったら変えないことは知っているの、本人の思いに任せます」と話されました。以前は息子さんも悪くなれば入院してほしいという思いがあり、そのたびに喧嘩になっていたようですが、今は本人の思いを尊重したいと希望されました。

訪問診療の度に状態は悪化しており、入院について確認しましたが「入院は考えていない」と話されました。訪問診療や訪問看護の回数を増やし、介護保険の変更申請を行いました。本人の同意を得てベッドを搬入し在宅酸素も導入しました。日に日に息苦しさなど症状は悪化し、ベッド上での生活も増えました。

その都度他職種で情報を共有し、息子さんへも意志を確認しました。「ここまで本人が入院を嫌がっているなら、最後は自宅で看てあげたい」と、息子さんの思いは変わらず、本人の意志に寄り添い、在宅で看取ることで意見が一致し関わりを続けました。

最期は患者さんの「自宅で亡くなりたい」という思いを叶えることができませんでした。

私の思いもよらない亡くなり方でショックを受けました。そして、どうしたら良かったのかと今でも時々思



い出すことがあります。「入院するとトイレに行けない状態で（家に）帰ってくることになるので、いや」。患者さんが最後まで入院を拒否していた理由のひとつです。この思いを聞いて、みなさんはどのように感じますか？これが患者さんの思いです。動くだけで息苦しさが増すため、床上での排泄を提案した時も「絶対にトイレには行く」と、最後までトイレで排泄することを望まれていた患者さんでした。



訪問診療に関わる患者さんの多くが自宅で過ごすことを望まれています。どんなに状態が悪くなくても、一人でいても、自宅は患者さんにとって居心地がいい場所です。入院すると、どうしても治療が優先になり、思いに寄り添うことが難しい場面があります。その反面、訪問診療では『患者さんや家族の思いに寄り添い、他職種と連携して、その思いを叶えることができる』そこが良さであり、やりがいを感じる場所だと私は思います。

経験不足でなかなか思いに寄り添うことは出来ていませんが、これからも思いに耳を傾け、患者さんや家族が安心して自宅で過ごすことができるように関わっていきたいと思います。



1年目看護師 奮闘記



兵庫民医連・看護部
Instagramも
ご覧ください！

ぜひフォローしてね♪



尼崎医療生協病院
地域包括ケア病棟

加藤 真穂

看護師になろうと
思ったきっかけ

身内の在宅看護を経験したからです。訪問看護師さんが家族にも寄り添ってくれ安心して在宅看護ができました。「看護師って凄い」と思ったことと、来てくれた訪問看護師さんたちに社会人からでも看護師になれるよと背中を押されたのもあり今に至ります。

趣味

飲みに行くこと。最近始めたゴルフ。

好きなアーティスト

最近はMrs. GREEN APPLEです。ケセラセラに励まされています。

ストレス発散方法は？ 休みの日に飲みに行くこと。仕事後のビール！

7か月経って成長したなと感じたことは何ですか？

すごく緊張してしまうので採血やサーフロー留置など人に針を刺す時に手が震えていたのですが、今では震えず患者さんに針を刺すことができるようになりました。(失敗ばかりですが…)
日勤ではフォローがリーダーになり、できる処置も増えて先輩達に相談をしながら責任もって受け持つことができるようになりました。

毎月のグループワークはいかがですか？

7月に急変対応や救急カートの薬剤の学習がありました。以前、遅出で急変対応があり戸惑いながら先輩に誘導してもらい実践できました。7月にグループワークで学んだおかげです。

初めての夜勤をやってみて、どんな気持ち(仕事の様子)でしたか？

疾患を照らし合わせながら自分で判断する場面が必要になるため、アセスメント能力が重要だと痛感しています。



深夜に入った感想は？

あっという間に朝になりました。

最後にひとこと！

まだまだ取得できてない技術がたくさんあるので、技術の取得と地域包括ケア病棟として退院後の患者さんの生活を考えたいできるようになりたいです。

ナースの仲間

多職種
連携の
大切さ

私たち看護師は、患者さんが安心して次の療養生活ができるために、さまざまな職種と関わり連携しています。
今回は、メディカルソーシャルワーカーをご紹介します。

東神戸病院
地域連携相談室
メディカルソーシャルワーカー
松本 圭太さん

東神戸病院でメディカルソーシャルワーカー(以下、MSW)をしています。松本です。

現在地域連携相談室で働いていますが、そこには看護師4名、MSW 3名、事務1名の8名で業務を行っています。

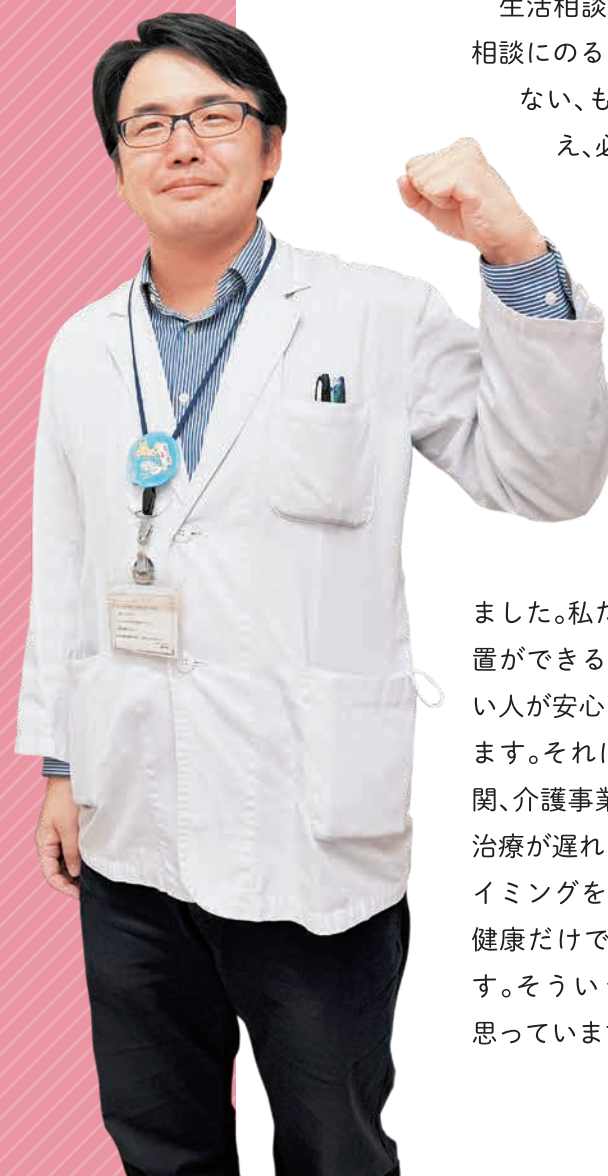
その中で私たちMSWは、生活相談や退院支援を行っています。

生活相談とは文字通り生活を行う中での医療や介護に関する悩み、疑問に対する相談にのること、とくに経済的な困難さを抱えた方や家族・友人など頼れる人がいない、もしくは少ない人たちであっても、安心して生活ができるよう、ともに考え、必要な支援が受けられるよう支援をしています。

ある若い方から「足の痛みがあり受診したいがお金がなくてどうしたらいいのか困っている」と相談の連絡がありました。看護師とも相談し、医療費の支払い方については相談に乗るので受診に来てくださいと伝え、受診につながったことができました。

診察の結果、専門病院での治療が必要な状態であることがわかり、本人や自治体、紹介先の医療機関と医療費の支払いの方法について相談し転院されました。専門病院を退院した後、当院へ治療費の支払いにいられた時「いくつか病院へ相談したんですが、お金がないと診れないと言われたんです。受け入れてくれて助かりました」と話してくれました。

私たちMSWは医療現場で、直接治療や処置ができる立場ではありませんが、医療を受けたい人が安心して病院にかかれるお手伝いをしています。それには医師、看護師、自治体、他の医療機関、介護事業所などと連携・相談は欠かせません。治療が遅れることは、回復を遅らせたり、治療のタイミングを損なったりすることにつながります。健康だけではなく命を失うことにもつながります。そういう意味でも重要な仕事をしていると思っています。



看護学生

兵庫民医連
奨学生

日記



尼崎看護専門学校
3年生
S.Cさん

✓看護師をめざしたきっかけ

私は高校生の頃、祖父の最期に立ち会うことができませんでした。その際に、看護師さんがかけてくださった言葉に救われた経験から看護師という職業に憧れを抱きました。当時は目の前の楽しいことに夢中で、最終的に違う道を選択したのですが、社会人として働くなかで、やっぱり看護師になりたいという気持ちが大きくなり、志すようになりました。

✓趣味

小さい頃から読書が趣味です。漫画やアニメ、ドラマや映画も好きですが、視覚的に描かれた映像や音で表現が固定されやすいと思っています。その点小説は、文字から登場人物の心情や場面を自分なりに具体的にイメージすることが可能です。読む人の数だけ多様な解釈が生まれ、個々の世界観を創り出すことができる。それが読書の醍醐味だと考えています。

✓ストレス解消法

「食べる」「寝る」「笑う」に尽きます!!!
基本的に、落ち込んでも寝たら忘れる性格です。お笑いも好きなので、YouTubeで芸人さんのネタを観たり、友達とドライブに出かけたり、ふざけ合ったりしています。

✓私の学校自慢

社会人学生が多いことです。看護は特にチームでの活動が軸になるので、学生間のコミュニケーショ

奨学生に記事を書いてもらい、通っている学校の紹介や最近の楽しみ、悩みなどを掲載しています!! 学生の皆さんは共感できるところも多いのではないのでしょうか。ぜひ、読者の声で感想や質問もお待ちしております!!



文化祭の様子

ンが大切だと思っています。入学前は、現役生と一緒に学ぶなかで、疎外感が生じるかもしれないと懸念していましたが、そのようなことは全くなく過ごせています。むしろ、年齢に関わらず意見を出し合い、互いに助け合える関係性が築けているので、社会人学生が多いことに加えて学生間の仲の良さも自慢のひとつです。

✓後輩へのアドバイス

専門学校の3年生は、1年のほとんどを実習先で過ごすことになります。記録の多さや睡眠不足など大変に思うこともありますし、上手いいかないことも多々あると思います。ですが、私は何よりも実習先で受け持たせていただく患者様との出会いを大切にしています。短期間でも学生を受け入れてくださっている患者様に感謝して、少しでも「受け入れてよかったな」と思ってもらえるよう関わることを心掛けています。そうすることで、自ずと患者様主体で個別的な支援の視点に繋がるのではないかと感じています。実習自体は始まれば終わります! 気負わず楽しみましょう!!

✓奨学生になって良かったこと

これまで医療とは全く異なる職種で働いていたため、知識面を含めて大きな不安がありました。ですが、奨学生として多くの交流会や学習会に参加させていただく中で、実際に臨床で働く方々のお話を伺う貴重な機会を得ることができました。そこでの学びを学業に活かした時、改めて奨学生になってよかったなと感じました。



新アンケート企画!!

教えて!! あなたの一番苦手な科目は?

あなたの“苦手な科目”、
教えてください!

「私の苦手なあの教科」「どうしても好きになれない授業」など、学生生活のリアルな声を集めています。ぜひ気軽にご参加ください!

アンケートに回答していただいた先着10名様に、図書カードをプレゼント!!

たくさんのご参加をお待ちしています♪

漢字熟語パズルやアンケートに回答頂きました先着10名様に図書カードをプレゼント!!

アンケート回答、パズルの解答はこちらから

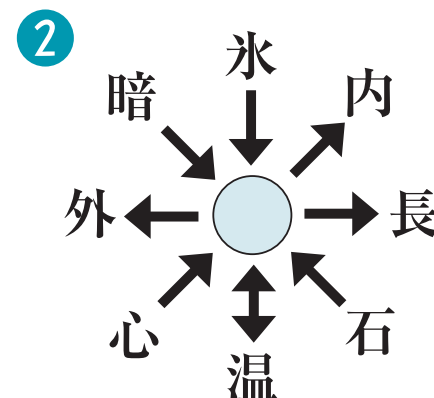
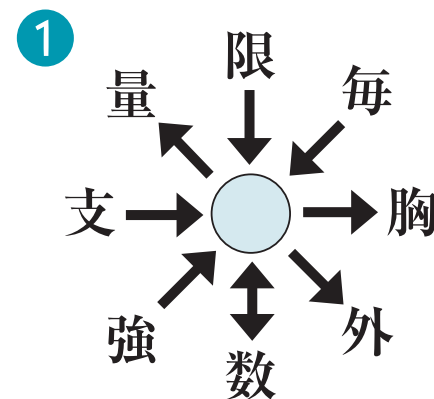


簡単!!
1分で回答できます



漢字熟語 パズル

矢印方向で二字熟語ができます。
真ん中の空欄に漢字を入れましょう。



広報誌を読んでもらって
ありがとうございます!

「こんな企画してほしい」「ここをもっと知りたい!」など、皆さんの声をぜひお聞かせください。ご意見・ご要望は下のQRコードから簡単に送信できます。次号の企画づくりの参考にさせていただきます! たくさんのメッセージ、お待ちしております!





看護の現場は、学びがいっぱい！

ナーシングセミナー



8月から9月にかけて、兵庫民医連の各病院で看護学生のみなさんを対象に
ナーシングセミナー（看護学生の現場実習）を開催しました。

感想の一部をご紹介します☆

尼崎医療生協病院

看護師さんがすることを一から説明してくれ、まだ学んでいないことも知ることができ、とてもいい経験になりました。看護師さんが、患者さんに処置しているところを間近で見る機会は今までになかったので、貴重な経験になりました。ありがとうございました。（専門学校1年生）



病棟に入るのが今回初めてでとても緊張しました。時間が経つとともに患者さんと喋れるようになって嬉しかったです。担当看護師さんが細かく説明してくれてとても良かったです。実際に看護師さんが働いているところを見られたので良かったです。（大学生1年生）



神戸協同病院

地域包括ケア病棟では、急性期を脱した患者さんが多く、医療的ケアだけでなく、患者さんが望む場所へ帰るための生活環境にも目を向けて関わっていく必要があることを学びました。

他の病棟より看護師の人数が少なく、一人で8～10人ほどの患者さんを受け持つため、忙しい中でも患者さんの思いを自然に聞き出し、その気持ちに寄り添う時間を確保することの大切さを感じました。

そのためには、限られた時間の中で「今、この患者さんに何が必要なのか」「どのような情報を引き出せば不安を少しでも軽減できるのか」を常に考え、優先順位を意識して行動することが求められると改めて学びました。

また、地域包括ケア病棟では入院時からすでに退院支援が始まるため、さまざまな調整や多職種との連携が非常に重要であると感じました。

さらに、患者さんご家族の意見が異なる場合には、看護師が間に立ち、双方の思いをくみとって調整していくことも大切な役割であると学びました。（専門学校3年生）



今後も兵庫民医連の各病院で、
春休みの時期にナーシングセミナー（インターンシップ）を開催します。
各病院のホームページもチェックしてみてください☆